

薬学研究科

学位プログラム： 創成薬学

授与する学位： 修士（薬科学）、博士（薬科学）

教育目標

大阪大学及び薬学研究科の教育目標のもと、創成薬学専攻では、優れた国際競争力を持つ指導的研究者を輩出することを目指して、卓越した「創薬基盤研究力」を有する人材を育成します。すなわち、ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、次世代の我が国の「ものづくり（創薬）」の文化を支えることができる基礎研究者、さらには創薬基礎研究に加え環境科学、レギュラトリーサイエンスの分野で活躍できる研究者の育成に力を注ぎ、総合的に革新的医薬品創出、医療・生命科学の発展に貢献できる優れた薬学人材の輩出を目指します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

（博士前期課程）

- ・有機化学、生物化学、物理化学などの幅広く深い知識を基盤として、さらに生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学等の薬学専門分野における卓越した「創薬基盤技術力」を養成します。

（博士後期課程）

- ・有機化学、生物化学、物理化学などの幅広く深い知識を基盤として、さらに生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学等の薬学専門分野における卓越した「創薬基盤技術力」修得し、創薬基礎研究者として次世代の「ものづくり（創薬）」を担うことができる資質・能力を養成します。

○高度な教養

（博士前期課程）

- ・人類が直面する健康・福祉・医療に関わる地球規模課題問題の解決に向けて、主導的かつ意欲的に取り組むことができる薬学領域の深い知識と複眼的・俯瞰的な思考力を養成します。
- ・創造性あふれる豊かな人間性と卓越したリーダーシップ、強い使命感、優れた倫理観を涵養します。

（博士後期課程）

- ・人類が直面する健康・福祉・医療に関わる地球規模課題問題の解決に向けて、主導的かつ意欲的に取り組むことができる薬学領域の深い知識と複眼的・俯瞰的な思考力を養成します。
- ・創造性あふれる豊かな人間性と卓越したリーダーシップ、課題問題の解決を主導する強い使命感、指導的研究者としての優れた倫理観を涵養します。
- ・地球規模課題の解決を指導的な立場で推進できる資質・能力を養成します。

○高度な国際性

(博士前期課程)

・将来、研究、教育、行政等において指導的立場で国際的に活躍するために必要な、世界の異文化社会を俯瞰し、最先端の創薬や公衆衛生等の研究を主導できる優れた国際的競争力を養成します。

(博士後期課程)

・将来、研究、教育、行政等において指導的立場で国際的に活躍するために必要な、世界の異文化社会を俯瞰し、最先端の創薬や公衆衛生等の研究を主導できる優れた国際的競争力を養成します。

・優れた国際的競争力を生かして、高度グローバル人材として活躍できる資質・能力を養成します。

○高度なデザイン力

(博士前期課程)

・ローカル及びグローバルな薬学的課題を深く探求し、協調的かつ主導的にその解決策を見出すことができ、さらにその高度化を図ることができる資質・能力を養成します。

(博士後期課程)

・ローカル及びグローバルな薬学的課題を深く探求し、協調的かつ主導的にその解決策を見出すことができ、さらにその高度化を図ることができる資質・能力を養成します。

・ローカル及びグローバルな薬学的課題の解決策を指導的な立場で実践することができる資質・能力を養成します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び薬学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、創成薬学専攻では、優れた国際的競争力を持った指導的研究者を輩出することを目指して、卓越した「創薬基盤研究力」を有する人材を育成するという教育目標に基づいて、ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、次世代の「ものづくり（創薬）」を担う創薬基礎研究者を育成します。すなわち、最先端の基礎科学を修得するのみならず、新たな生命原理の発見や革新的科学技術・医療技術の創成に寄与する卓越した「創薬基盤技術力」を備え、さらに発展させることができる人材の育成を実践します。

学習目標に掲げる「最先端かつ高度な専門性と深い学識」、「高度な教養」、「高度な国際性」及び「高度なデザイン力」を達成して所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士前期課程においては修士（薬科学）、博士後期課程においては博士（薬科学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

（博士前期課程）

- ・有機化学、生物化学、物理化学などの幅広く深い知識を基盤として、さらに生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学等の薬学専門分野における卓越した「創薬基盤技術力」を身につけている。

（博士後期課程）

- ・有機化学、生物化学、物理化学などの幅広く深い知識を基盤として、さらに生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学等の薬学専門分野における卓越した「創薬基盤技術力」を身につけ、創薬基礎研究者として次世代の「ものづくり（創薬）」を担うことができる。

○高度な教養

（博士前期課程）

- ・人類が直面する健康・福祉・医療に関わる地球規模課題問題の解決に向けて、主導的かつ意欲的に取り組むことができる薬学領域の深い知識と複眼的・俯瞰的な思考力を身につけている。
- ・創造性あふれる豊かな人間性と卓越したリーダーシップ、強い使命感、優れた倫理観を身につけている。

（博士後期課程）

- ・人類が直面する健康・福祉・医療に関わる地球規模課題問題の解決に向けて、主導的かつ意欲的に取り組むことができる薬学領域の深い知識と複眼的・俯瞰的な思考力を身につけている。
- ・創造性あふれる豊かな人間性と卓越したリーダーシップ、課題問題の解決を主導する強い使命感、指導的研究者としての優れた倫理観を身につけている。
- ・地球規模課題の解決を指導的な立場で推進できる。

○高度な国際性

(博士前期課程)

・将来、研究、教育、行政等において指導的立場で国際的に活躍するために必要な、世界の異文化社会を俯瞰し、最先端の創薬や公衆衛生等の研究を主導できる優れた国際的競争力を身につけている。

(博士後期課程)

・将来、研究、教育、行政等において指導的立場で国際的に活躍するために必要な、世界の異文化社会を俯瞰し、最先端の創薬や公衆衛生等の研究を主導できる優れた国際的競争力を身につけている。

・優れた国際的競争力を生かして、高度グローバル人材として活躍できる。

○高度なデザイン力

(博士前期課程)

・ローカル及びグローバルな薬学的課題を深く探求し、協動的かつ主導的にその解決策を見出すことができ、さらにその高度化を図ることができる。

(博士後期課程)

・ローカル及びグローバルな薬学的課題を深く探求し、協動的かつ主導的にその解決策を見出すことができ、さらにその高度化を図ることができる。

・ローカル及びグローバルな薬学的課題の解決策を指導的な立場で実践することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び薬学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、創成薬学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた「最先端かつ高度な専門性と深い学識」、「高度な教養」、「高度な国際性」及び「高度なデザイン力」を修得するために、博士前期課程においては講義科目、ゼミナール科目、演習科目、高度教養科目及び高度国際性涵養教育科目、博士後期課程においては、選択必修科目、必修科目、選択科目を体系的に編成しています。課程を修了するためには、前期課程では1、2年生で合計30単位以上、後期課程では1～3年で合計15単位以上の取得が必要となります。

<教育課程編成の考え方>

ディプロマ・ポリシーに掲げた「最先端かつ高度な専門性と深い学識」、「高度な教養」、「高度な国際性」及び「高度なデザイン力」について、それぞれの学習目標の修得を目的とした科目を体系的に配当することにより教育課程の編成を行います。

それぞれの学習目標の修得については、「最先端かつ高度な専門性と深い学識」は、前期課程では講義科目、ゼミナール科目及び演習科目、後期課程では選択必修科目及び必修科目によって修得します。

「高度な教養」は、前期課程では講義科目、ゼミナール科目、演習科目及び高度教養教育科目、後期課程では選択必修科目、必修科目、選択科目によって修得します。

「高度な国際性」は、前期課程では講義科目、ゼミナール科目、演習科目及び高度国際性涵養教育科目、後期課程では選択必修科目、必修科目、選択科目によって修得します。特に「グローバル大学院薬学演習」は本資質・能力の修得に特化した科目として両課程に配当されています。

「高度なデザイン力」は、前期課程ではゼミナール科目、演習科目及び高度教養科目、後期課程では選択必修科目、必修科目及び選択科目によって修得します。

<学修内容及び学修方法>

「最先端かつ高度な専門性と深い学識」、「高度な教養」、「高度な国際性」及び「高度なデザイン力」について、それぞれの学習目標の修得に係る科目については、学習目標への到達に適した学修方法として、PBL・アクティブラーニング、自己学修を取り入れた講義、演習や、実習、実験、研修等を行います。また、適宜こういった学修方法を組み合わせて授業を行います。

<学修成果の評価方法>

全ての開講科目について、それぞれの学習目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価します。特に、知識（授業等）だけではなく大学院教育においてさらなる高度化を図るべき技能や思考力・判断力・表現力、協働して学ぶ態度の修得・醸成を行う演習科目や実習科目等（研究指導）については、科目の学習目標や修得すべき資質・能力に合わせた適正な学修成果の評価を行います。

